

「かながわ青少年育成・支援指針」と「子供・若者育成支援大綱」の比較

【現大綱】 子供・若者育成支援推進大綱 (平成 28 年 2 月閣議決定)	【現行指針】 かながわ青少年育成・支援指針 (平成 28 年 3 月改定)	子供・若者育成支援大綱 (案) (令和 3 年 3 月パブリックコメント資料)	【改定指針に盛り込む視点等 (案)】
①全ての子供・若者の健やかな育成 ・基本的な生活習慣の形成、学力・体力の向上、規範意識や思いやりの心の涵養 ・心・身体の健康を維持し、自ら考え自らを守る力の育成 ・地域の実情を踏まえた、子供・若者育成支援に関する相談窓口の整備の促進	基本目標Ⅰ すべての青少年の健やかな成長と自立・参加・共生に向けた支援 (現大綱の①、②・⑤の一部) ・健康な心と体、確かな学力の育成、活躍の応援 ・豊かな人間性と社会性をはぐくむ遊びや地域活動の推進 ・社会の変化に対応し、健全に成長する力の育成	①全ての子供・若者の健やかな育成 全ての子供・若者が、かけがえのない幼年・若年期を健やかに過ごすことができ、かつ人生 100 年時代、絶え間ない変化の時代を自立して生き抜く基礎を形成できるよう、育成する。	現行指針の基本目標Ⅰ すべての青少年の健やかな成長と自立・参加・共生に向けた支援 ○新たに加える視点 ・人生 100 年時代を生き抜く基盤の形成 ・新たな青少年の自立のあり方
②困難を有する子供・若者やその家族の支援 ・年齢階層で途切れさせない縦のネットワーク及び多機関が有機的に連携した横のネットワーク構築を通じた支援 ・家庭等に出向き支援するアウトリーチの充実 ・子供の貧困対策、児童虐待防止対策の強化	基本目標Ⅱ 困難を有する青少年の社会的自立の支援 (現大綱の②) ・多様な機関の連携による総合的相談・支援体制の充実 ・ひきこもり・ニート等困難を有する青少年の支援 ・非行防止対策及び立ち直り支援活動の推進 ・不登校・いじめ・暴力行為等学校が抱える課題への充実 ・子どもの貧困問題への対応 ・被害防止・保護活動の推進	②困難を有する子供・若者やその家族の支援 困難を有する子供・若者が、速やかに困難な状態から脱し、あるいは困難な状況を軽減・コントロールしつつ成長・活躍していけるよう、家族を含め、誰ひとり取り残さず、かつ非常時においても途切れることなく支援する。	現行指針の基本目標Ⅱ 困難を有する青少年の社会的自立の支援 ○新たに加える視点 ・困難な状況になる前の予防的な支援 ・相談のハードルをさげる取組み ○継続・強化して取組む点 ・多機関連携による支援
③子供・若者の成長のための社会環境の整備 ・地域等で実施される各種の体験・交流活動の充実 ・インターネットの急激な普及を踏まえた情報通信技術の適切な利用	基本目標Ⅲ 社会全体で青少年をはぐくむ環境づくり (現大綱の③、④、⑤の一部) ・社会環境健全化へ向けた取組みの一層の推進 ・急激に進展する情報化社会への対応 ・青少年の成長を支える豊かな地域社会づくり	③創造的な未来を切り拓く子供・若者の応援 子供・若者が、一人ひとり異なる長所を伸ばし、特技を磨き、才能を開花させ、世界や日本、地域社会の未来を切り拓いていけるよう、応援する。	現行指針の基本目標Ⅲ 社会全体で青少年をはぐくむ環境づくり ○新たに加える視点 ・情報通信技術を活用できる人材の育成 ○継続・強化して取組む点 ・青少年をはぐくむ場としての地域社会づくり、人づくり
④子供・若者の成長を支える担い手の養成 ・官公民連携による地域における共助機能の充実 ・総合的な知見を有するコーディネーターの養成		④子供・若者の成長のための社会環境の整備 家庭、学校、地域等が、子供・若者の成長の場として、安心安全な居場所として、より良い環境となるよう、社会全体、地域全体で子供・若者を育てる機運を高め、ネットワークを整え、活動を促進する。	
⑤創造的な未来を切り拓く子供・若者の応援 ・グローバル人材、科学技術人材の育成 ・情報通信技術の進化に適応し、活用できる人材の育成 ・地域づくりで活躍する若者の応援		⑤子供・若者の成長を支える担い手の養成・支援 教育・心理・福祉等の専門人材から、地域の身近な大人、ひいては当事者たる子供・若者自身に至るまで、多様な担い手を養成・確保するとともに、それぞれの連携・協働の下、持続的な活躍が可能となるよう、支援する。	